（参考様式２）　　社会資本総合整備計画　事後評価

計画の名称	1　稚内港における安全で利便性の高い通行の確保（防災・安全）		
計画の期間	平成29年度　～　令和3年度　（5年間）	交付対象	稚内市

計画の目標

・ふ頭間及び中心市街地を結ぶ臨港道路の整備により、人にやさしい快適な導線を構築することで、港地区、末広地区を利用する市民や港湾利用者、観光客等の移動の利便性向上を図る。
・港内における船舶の安全な航行や安定した荷役作業を確保するため、外来漁船の係留施設を整備し、利用者の利便性向上を図る。
・船舶上下架作業の安全を確保するため、船舶上下架施設の整備を行い、利用者の利便性向上を図る。

計画の成果目標（定量的指標）

・道路整備を行うことにより、車両の安全で円滑な通航・快適な歩行空間の確保を行う。ふ頭間をつなぐ臨港道路の不陸や段差を解消し、スムーズで安全な交通を確保する。
・外来漁船や地元漁船のスムーズな陸揚げや準備を行うために、係留施設を新設する。
・船舶上下架施設の整備を行い、上下架作業の安全性の確保と作業の効率化、漁業者負担の軽減を図る。

	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値（H29当初）	中間目標値（H31末）	最終目標値（R3末）	備考
1	・交通死亡事故ゼロ	0　件	0　件	0　件	
2	・係留施設を整備することでスムーズな陸揚作業になり、水産品の商品価値の低下が回避され付加価値が向上する。本計画では、イカの魚価上昇を目標とする。過去5年（H24~H28）のイカの平均魚価は、2,141円/ｔ（水揚げ高÷水揚げ量）である。	2141　円/ｔ		当初現況値以上	
3	・上下架船舶28隻の上下架総作業時間の短縮。	132時間	37時間	37時間	

全体事業費	合計（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）	384.0百万円	Ａ		Ｂ		Ｃ		効果促進事業費の割合 Ｃ／（Ａ＋Ｂ＋Ｃ）	0.00%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
稚内市建設産業部港湾空港課にて実施	令和5年4月
	公表の方法
	稚内市ホームページにて公表

1. 交付対象事業の進捗状況

Ａ　基幹事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	港湾種別	省略工種	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	港湾・地区名	事業実施期間（年度） H29	H30	H31	R2	R3	全体事業費（百万円）	備考
A02-001	港湾	北海道	稚内市	直接	－	重要	改良	臨港道路の改良	Ｌ＝1000m	稚内港・港地区、末広地区	━	━	━	━	━	109	
A02-002	港湾	北海道	稚内市	直接	－	重要	改良	係留施設整備	物揚場Ｌ＝58m、岸壁Ｌ＝58m	稚内港・港地区	━	━	━	━	━	138	
A02-003	港湾	北海道	稚内市	直接	－	地方	改良	船揚場改良	船揚場一式　リフト基礎工、軌道基礎工	宗谷港・本港地区		━	━			137	
小計（港湾事業）																384	
合計																384	

Ｂ　関連社会資本整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容（延長・面積等）	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度） H24	H25	H26	H27	H28	全体事業費（百万円）	備考
合計																

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

Ｃ　効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度） H24	H25	H26	H27	H28	全体事業費（百万円）	備考
合計																

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

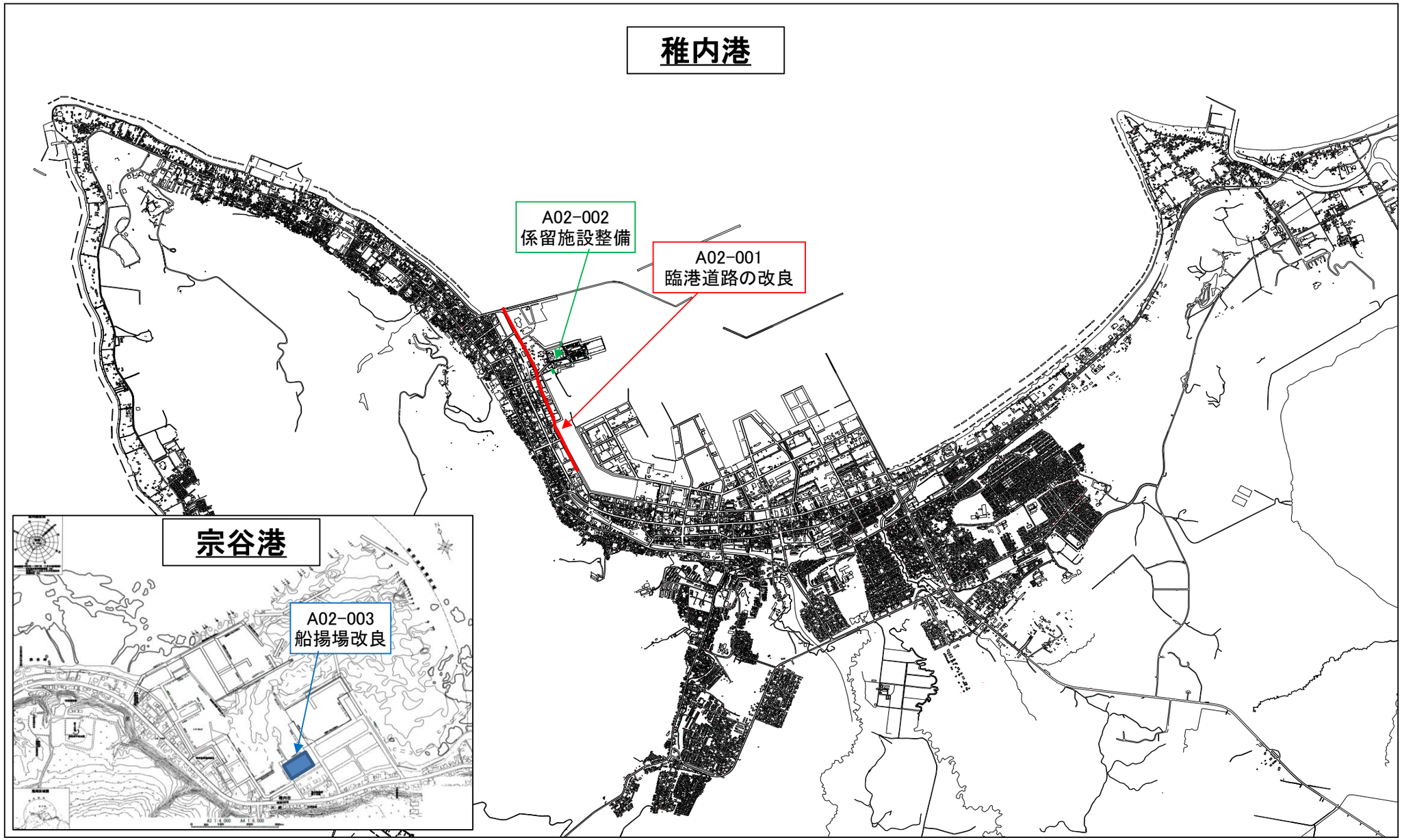
2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

Ⅰ　定量的指標に関する 交付対象事業の効果の発現状況	・歩車道の改良により、安全で快適な歩行空間を創出することができたことや車道についても段差や轍が改良されスムーズな交通体系が構築された。 ・施設は完成していないが、係留施設を整備する過程で設置した、消波構造により安全な航行や荷役作業が実現できた。 ・上下架時間の短縮により、余裕をもって作業を行うことができ、事故の危険性が大幅に減少した。				
Ⅱ　定量的指標の達成状況	指標①交通死亡事故ゼロ	最終目標値	0件	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	0件		
	指標②イカの魚価上昇	最終目標値	2141円/t	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	当初現況値以上		
	指標③上下架総作業時間の短縮割合	最終目標値	37時間	目標値と実績値に差が出た要因	指標設定時は、隻数28隻で設定したが、事業完了時には廃船により対象隻数が27隻となったため。
		最終実績値	35.5時間		
Ⅲ　定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現	・不陸や段差の解消により交通の安全を確保することができた。 ・操業中の修理や、整備時にも利用できるため更なる効果の発現が期待できる。				

3. 特記事項（今後の方針等）

・安全かつ快適な道路ネットワークの整備や生活環境の向上を図ることを目指して今後も道路改良を実施していきます。

・適切な維持管理・修繕を実施し、施設の長寿命化を図ります。

（様式３）　社会資本総合整備計画

計画の名称	1　稚内港における安全で利便性の高い通行の確保（防災・安全）		
計画の期間	平成29年度　～　令和3年度　（5年間）	交付対象	稚内市